新年のごあいさつ

美波町長　影治信良

新年明けましておめでとうございます。町民の皆様には、お健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は町行政に対し温かいしかも深いご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、「子ども・子育て支援新制度」のスタート、「選挙権年齢を十八歳以上に引き下げ」、「ＴＰＰ協定交渉の大筋合意」など、日本の社会システムが大きな転換点を迎えた年であり、我が国全体が人口減少と地域経済縮小の克服に向け「地方創生」が動きだした年でもありました。

昨年の本町を振り返りますと、合併後初の「社会増の達成」（平成二十六年人口動態）の話題で幕が明け、三月には道の駅日和佐が国土交通省の「重点道の駅候補」に選定され、五月には美波町ＰＲ映像「美波と生きる」が制作発表、八月には「サテライトオフィス」が十二社となり徳島県下で神山町と並び、九月には「由岐湾内地区住宅コンペ」を実施、十月の「国勢調査」では、国立社会保障・人口問題研究所の推計に反し減少率が抑えられたこと、十二月には牧島かれん地方創生担当大臣政務官が来町されるなど、一年を通じて美波町を全国に発信することが出来た年であったと感じています。

本年は、昨年策定した「美波ふるさと創造戦略～共創によるまちづくり～（五カ年計画）」に基づき、美波町の強みを活かし人を呼び込むなど、活力ある美波町の創生に全力で取り組んでまいります。

さて本年は、町の最重要課題として取り組んでまいりました美波病院が完成し、二月十五日に落成式、三月一日開院の運びとなりました。町民の皆様のご理解とご協力に改めてお礼を申し上げます。

美波病院は、標高二十三メートルの高台に建設され、建物は耐震及び免震構造となっており、大災害発生時の病院機能の喪失を防ぎ、入院患者の安全が確保されます。また良質な医療の提供と医師等の勤務環境の改善さらには訪問診療など地域に根ざした医療サービスを提供できる病院となりました。医師・看護師等医療従事者の充実に取り組んできた結果、徳島県並びに徳島大学のご支援を賜り、現在の医師に加え内科医師二名と脳神経外科医師一名並びに総看護師長を配置できることとなりました。なお、美波病院が日和佐道路の由岐ＩＣ付近の高台に建設されることから、由岐支所～美波病院～日和佐診療所の区間に無料連絡バスを運行いたします。

美波病院の開院により由岐病院は廃止となりますが、日和佐病院については日和佐診療所として引き続き外来診療を行いますのでご理解賜りたいと存じます。

また本年二月には、旧日和佐高校跡地に計画している「美波町医療保健センター」の建設工事に着手いたします。引き続き、町民の皆様が安心して生活できる、医療・保健・福祉・介護等を一体的に受けられる地域包括ケアシステムの構築に取り組んでまいりたいと考えているところであります。

さらに本年は、美波町誕生十周年を迎える節目の年です。昨年には、合併十周年プレイベントとして、しおかぜ香るウミガメコンサートを開催いたしました。本年は、三月二十九日に「合併十周年記念式典」を計画しています。合併にご尽力された方々に敬意を表し、これまでの十年に思いをはせると同時に、本年をこれからの十年に向けてのスタートの年と位置づけ、本町の更なる飛躍と一体感の醸成に取り組む所存であります。

本年は東日本大震災から五年という節目の年でもあります。私たちはともすると時間の経過とともに少しずつ震災の悲惨な記憶を薄れてしまいがちになりますが、東日本大震災の教訓を風化させることなく、引き続き南海トラフ巨大地震への備えとしての防災・減災対策にしっかりと取り組んでまいります。

今年も時代の変化や国・県の動向を注視しながら、引き続き効果的に施策を展開することで、地域の活性化や持続可能な町の実現に向けた行財政運営を行い、住民の皆様の負託に応えていきたいと決意も新たにしているところでありますので、本年もどうか温かいご理解とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに本年が皆様にとりまして、幸多い年となりますことを心からご祈念申し上げ、新春のご挨拶といたします。